

右 夫 普 為 令
遂 兜 率 上 詣 願 望
結 龍 花 下 生 来 縁
積 一 文 勸 進 小 資
成 五 重 塔 婆 大 功
順 逆 諸 縁 同 利 益

貞和四年戊子十二月十八日

上九輪

再修

鑄師大井大工沙弥本願

住持沙門頼秀敬白

(五重塔婆の裏側)

覚忍

※ これらは、後の時代に
追記されました。

右はみんなが

兜率天とそつてんにお参りする願いを遂げ、

龍花りゅうげの樹の下に現れる弥勒菩薩みろくぼさつと縁を結ぶために、

わずかばかりの寄付を積み重ねて

五重塔を建立するという大事業を成し遂げた。

善人も悪人も共にみほとけ(御仏から授かる)御利益ごりやくは同じ。

貞和四年じょうわつちのえね(一三四八)十二月十八日

九輪くりんをたてまつる。「再修理」

鑄物師の大井大工いもじの沙弥しゃみの本願

住持じゅうじの沙門しゃもん頼秀らいしゅうが敬って申し上げる。

「覚忍」
かくにん

- ※ 兜率天：神々や弥勒菩薩が住む世界
- ※ 龍花：弥勒菩薩が悟りを開いたという竜華樹
- ※ 弥勒菩薩：人々を極楽浄土へ導く修行者
- ※ 九輪：塔最上層の屋根頂部にある飾りの一つ
- ※ 鑄物師：鑄物を作る職人
- ※ 沙弥：出家したが、正式の僧になっていない男
- ※ 沙門：出家した僧侶